

《音楽科における授業改善推進プラン》

I 音楽科における平成30年度授業改善推進プランの検証

〈取り組みにおける成果と課題〉

- ◎ 音楽を聴き、自分なりに感じたことや気付いたことを伝えることができるようになってきた。
- ◎ 基礎的な技能を基に、音楽の特徴や音色に注意して演奏できるようになってきた。
- ▼ 苦手な児童に対する個別指導が必要である。
- ▼ 主体的な表現については継続的な指導や場の設定が必要である。

II 音楽科における現状の分析

観 点 別 学 習 状 況 の 分 析	1 音楽への関心・意欲・態度
	2 音楽表現の創意工夫
	3 音楽表現の技能
	4 鑑賞の能力

◎低学年ほど歌うことや演奏するといった表現活動への意識が高い。
◎高学年になると自信をもって表現できることや興味をもった曲には積極的にかかわろうとしている。

◎音楽の要素や曲の特徴を感じ取ることはできている。
▼音楽の要素や曲の特徴をどう表現するか自分で考えたり、友達と意見交換したりできる児童は少ない。

▼歌唱については、低学年の「元気に歌う」から、高学年の「発声・発音・音程」といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなってくる。
▼器楽については、基礎技能向上のために個別指導が必要である。

◎低・中学年は曲の感じを身体表現で表すことはよくできている。
▼感じたことや音楽の要素を言葉で表現することは難しい。
◎高学年は、楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を感じることはできる。
▼言葉でうまく説明できない児童が多い。

III 授業改善のポイント

- 1 主体的な表現が苦手である。思いをもって表現をする
⇒継続的な指導を続け、自信をもって発表したり演奏したりできるようにする。
- 2 基礎的な技能の定着及び技能の向上
⇒基礎的な技能の定着の徹底を図る。リズムや旋律の特徴などを生かして歌ったり演奏したりできるようにする。
- 3 鑑賞活動の充実
⇒音楽の要素や曲想を表す言葉を覚え、旋律の特徴と結びつけて聴くことができるようにする。

IV 音楽科の授業改善策

- 1 思いをもって主体的に表現するために
 - 全 ・学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。
 - 低 ・いろいろな曲に親しみをもって、音に対する興味関心を広げられるような学習を進める。曲の様子を思い浮かべて歌や楽器で表現できるような学習活動を取り入れる。
 - 中・高 ・鑑賞活動を軸に、音楽の特徴(仕組み、強弱、速さ、旋律、重なりなど)に気付き、それらを基に演奏に生かす。
- 2 基礎的な技能の定着及び技能の向上を図るために
 - 全 ・個別指導の充実を図り、児童の表現しようとする意欲や表現したい意図を大切にしたい指導を重視していく。基礎的な内容を継続的に確認し定着の徹底を図る。
 - 低 ・「タン(ウン)」などを音符の下に表示して分かりやすくして目で見てわかるように掲示する。言葉や手拍子でリズム打ちをする。
 - 中 ・旋律の特徴を理解し、どのようにしたら特徴を生かした音色になるのかを考え、取りまさせる。例)レガート、スタッカートなど
 - 高 ・音の重なりを中心に、その特徴を生かした音色になるように考え、練習に取りまさせる。例)それぞれのパートがどのような役割を持っているのかを理解する。
- 3 鑑賞活動を充実させるために
 - 低 ・音楽を進んで聴くことができるようにする。拍の流れを感じとって体を動かしたりして、楽しんで活動できるように具体的なめあてを子どもたちに伝える。音楽を聴くポイントをより明確にして楽しく音楽を聴くことができるようにする。
 - 中・高 ・音楽を聴いて感じ取ったことをお互いに伝え合ったり、共感し合ったりして曲の良さに気付かせる。⇒主体的表現の場の設定。
・音楽の特徴と気分を関連づけて聴けるようにする。

